

大館市総合教育会議
会 議 録

平成30年10月開催

平成30年度 第1回大館市総合教育会議 会議録

1 日 時 平成30年10月25日 木曜日
開会 15時15分 閉会 17時00分

2 会 場 大館市役所 本庁 第1委員会室

3 出席者 大館市長 福原 淳嗣
大館市教育委員会 教育長 高橋 善之
教育委員 山田 和人
教育委員 根田 穂美子
教育委員 清野 克子
教育委員 小笠原 正卓

(事務局関係)	教育次長	本多 恒博
	教育監	山本 多鶴子
	教育総務課長	加賀 安長
	教育総務課長補佐	成田 浩司
	学校教育課長	金子 広英
	学校教育課長補佐	小松原 功秀
	教育研究所長	貝森 逸子
	生涯学習課長	一関 留美子
	中央公民館長	山口 和博
	歴史文化課長	若宮 司
	歴史文化課長補佐	大井 和博
	スポーツ振興課長	松田 新一
	スポーツ振興課長補佐	佐藤 税

4 協議事項 (1) 次年度以降の重点的に講ずべき施策について

5 会議内容

○本多教育次長

皆さま、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。ただ今から、平成30年度第1回大館市総合教育会議を開会いたします。

本日の本会議の構成員の皆さまの出席状況ですが、全員出席でございます。

まず、会議の公開の取扱いについてお諮りいたします。

本日は、傍聴希望者はおりませんが、報道関係者の取材希望が2社おられます。

会議につきましては、非公開とすべき事項はないものと考えますので、「地方教育

行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第6項に基づき会議を公開とし、傍聴等を許可したいと思いますがいかがでしょうか。

「異議ありません」

それでは、本日の会議は公開とさせていただきます。

はじめに、開会にあたりまして、当会議の招集者であります福原市長がごあいさつを申し上げます。

○福原市長

平成30年度第1回大館市総合教育会議の開催にあたりまして、構成員の皆さま方にはご臨席いただきましたことと合わせて、平素より大館市が進める教育行政に格別なご理解とご協力をいただいておりますことに、深く感謝を申し上げます。

また、平素より大館市教育行政に対しまして、多大なるご理解とご尽力ご協力をいただいておりますことにも、重ねて感謝を申し上げます。

平成31年は選挙がある関係で、骨格予算での編成がすでに始まっておりますが、言うまでもなく、教育委員会と市長部局の将来に対する方向性を共有することと合わせて、委員の皆さまの考えを反映させる、教育長の熱い思いを反映させるためにも、本総合教育会議は非常に重要であると考えております。

すでに委員の皆さまはご高承のとおり、高橋教育長が大館の「教育の産業化」を打ち出しまして、ほかの自治体とは明らかに違う次元の教育政策をわが大館市は進めているところです。

大館は人を育てていくことができるまちだと確信を持っております。ふるさとキャリア教育は、高橋教育長のもとこれからさらにレベルアップをしていきますが、政府が社会保障の全世代化を掲げたのと同じように、子どもたちだけでなく、あらゆる世代に展開していく底力が大館の教育力にはあると考えています。

今日は忌憚のないご意見を賜りまして意義のある総合教育会議にしたいと思しますので、最後までよろしくごお願い申し上げます。どうもありがとうございました。

○本多教育次長

ありがとうございました。これより、本会議の進行は規定によりまして市長が進めるということになっておりますので、福原市長よろしくごお願いいたします。

○福原市長

それでは、規約に基づきまして議長を務めさせていただきます。円滑なご審議にご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お手元にお配りしております次第に従いまして、進めさせていただきます。次第の3、高橋教育長より熱のこもった熱いごあいさつをお願いいたします。

○高橋教育長

市長におかれましては、ふるさとキャリア教育への深いご理解と、連携・推進の構築体制につきまして、市長しかできないお力添えご尽力を賜りまして、本当に感謝申し上げます。

新しい教育委員会制度が発足して3年になりますが、この総合教育会議を含めて、首長と教育委員会が一体となって教育施策を強力に進めていくという趣旨で始まった新教育委員会制度が、このような形で具現化しているというのが非常に私は誇りに思っておりますし、これがふるさとキャリア教育、大館の教育をさらに深化させた大きな力だと思っております、重ねて感謝を申し上げます。

加えて、市長の超多忙な日程を割いていただいて、小中学校のキャリア教育講話や先日の「育ちと学びのフォーラム」で有浦保育園に行って実際の実地指導を見ていただいたり、鳳鳴高校の120周年で定時制の桜循環館の生徒たちに講話をしてくださったったり、定時制の生徒たちが市長から直接お話を伺うということは今までなかったことであります。正に大館教育が進める「一人たりとも置き去りにしない教育」を、身をもって実践していただいていることを非常にうれしく思います。

大館ふるさとキャリア教育のキャッチコピーは『大館盆地を学舎に市民一人一人を先生に』ですが、『大館盆地を学舎に市長自ら先生に』を実現しています。

少子高齢化という重い問題がございますが、市長が今目指している大館の未来戦略の「人材育成」という面から寄与し、それを社会減の抑制という形でふるさとキャリア教育の成果を出していきたいと思うとともに、市長が直接的に推進しております交流人口、移住人口の増加について、ささやかですが教育の面からも貢献してまいりたいと考えていますので、どうかよろしく願いいたします。

○福原市長

ありがとうございました。

それでは、次第の4の協議事項に入りますが、協議に入ります前に、事務局から発言を求められています。発言を許可します。本多教育次長、どうぞ。

○本多教育次長

議事進行は議長である市長が行うべきところでございますが、市長、教育長、教育委員の皆様の活発なご協議をいただくために、昨年同様、議事進行は事務局が進めてまいりたいと考えておりますがいかがでしょうか。

「異議なし」

○福原市長

異議なしとのことでございますので、進行は事務局をお願いいたします。

○本多教育次長

それでは、協議事項（１）「次年度以降の重点的に講ずべき施策について」、順次ご説明を申し上げます。なお、施策テーマ１件ごとに協議を進めてまいりたいと考えておりますので、自由な意見交換をお願いいたします。

はじめに「教育の産業化構想Ⅱ」について、高橋教育長から説明をお願いします。

（「教育の産業化構想Ⅱ」について、高橋教育長が説明）

○山田委員

９年間の積み重ねの中で、こういう形が出来てきたと先ほどの会議でもお話をしましたが、まずもって職員の皆さんに感謝申し上げたところでございます。また、市長の観点から教育委員会に対するご支援をいただいていることに対しましても、この場を借りて感謝を申し上げたいと思います。

私も委員を務めて長いのですが、１０年前とでは隔世の感があります。これだけのことを教育が成し得るんだということを目の当たりにしますと、ある意味、驚愕というか驚きを禁じ得ません。

ただ、先ほど教育長からもありましたが、やはりどうしてもこれだとマンパワーが不足であろうと考えております。これを一つの核にしていくというのであれば、なお一層マンパワーがないと積み上がっていかないだろうと。下手をすると、逆にここまで積み上がったものが、あるときそれがなくなることによって崩壊することのほう、怖いような感じがします。

もう少しマンパワーを向けていきたいと私は考えますので、職員の皆さんとお話し合いいただきながら、確固たるものをお願いできればという思いです。

○根田委員

私も高橋教育長のパワーに引かれながら、いつの間にか１０年が経過しました。

大館市の教育におきましては、大変目まぐるしい変化に私も何とかついてきました。学校の先生方も大変ですが、子どもたちはここ５、６年で大変な成長ぶりを見せてくれたと思います。

先生方の苦労も大変なものだと思います。成長した子どもたちが先生のちょっとした油断でまた歪みかねないという先生方の緊張感を何とか緩めてあげて、先生方をサポートしてあげられる何かがあればいいかなと常に思うところです。

教育長も話されましたけれども、今後、教員が不足していくのは明らかな事実ですから、教育実習にいらした方々にも大学に働き掛けていただいて、大館の教育を学びながら大館の良さを知っていただき、その中で大館に住み着く気持ちになってくれれば大変ありがたいことです。

また、子どもたちがキャリア教育によって大変成長し、子どもたちの大館に対する気持ち、ふるさとの心を感じる気持ち、これが本当に育ってきているのをよく感

じています。大館のことを考えて、いずれ戻ってきてくれる子どもたちが少しでも多ければもちろん素晴らしいことなのですが、大館の教育が日本、世界とグローバルに生かされて、日本国内、海外にもその教育が生かされ世の中のために実用化されるのであれば、これまたうれしいことでもありますので、束縛せずに子どもたちをグローバルに送り出すことも大事かなという思いもあります。

教育力は、地域の力だと思うんです。市民がどれだけ教育に関心を寄せて、子どもを地域一体で守っていくかということ。それが今の大館市ではうまくいっている。子どもたちの理解度、市民の皆さんの理解度も非常に高くなっていると思います。

私は市民から選ばれた教育委員ですので、いろんな方に会うたびにこれだけ教育委員会、学校の先生方が頑張っていると、子どもたちがこのように成長していると、思いを伝えるようにしています。もっとたくさんの方々に大館の教育というものを理解していただいて、今後に向かっていければいいかなという思いでいっぱいです。

○小笠原委員

平素より大館市の教育にお力添えをいただきましてありがとうございます。先日の「育ちと学びのフォーラム」で、市長がお話を聞きに来てくださっていて理解していただいて感動しました。

私は保護者代表としての立場でここにいるので、その視点からお話をさせていただきますが、自分たちの子どもだけでなく、周りのみんなが伸び伸びと学びも遊びも育っている環境も今の大館市では出来上がっていて、素晴らしいことだなと感じています。

それには、周りで支えてくださる先生方、教育委員会の皆さんの大変な努力が実って、子どもたちが伸び伸びと育ってくれていて成長を続けているんですね。

その結果のひとつを見たのが大館鳳鳴高校の課外授業です。私もこのたびお話をさせていただく機会がありまして、僕のつたない話を一瞬で理解して質問を返してくる力が彼らには備わっていることに驚かされました。これもまた、ふるさとキャリア教育の力の一部だなと感動しております。

その一方で心配なのが、実は我々市民です。環境とは恐ろしいもので、そこにいる環境にずっと流れていると当たり前になって何も感じなくなってしまうんです。大館にはこのふるさとキャリア教育があるんだということを私たち保護者が理解をして、誇りが持てるそういうまちになって欲しいと思います。

そういうアピールを、いろいろな場所でぜひ福原市長にもしていただけると、そのインパクトも大変強いものになって、大館市民が誇りに持つものが改めて国内外から輝いて見えるものになると思います。それが、未来の大館の間違いなく一番の誇りになると思いますので、お力添えをいただければと思います。

一方で、学校の先生方の気のご苦労も、子どもを小学校に通わせていると見て取れます。市長部局からのサポートもなお一層いただければ、我々も安心して子育てができると思います。

○清野委員

退職して10年ちょっと過ぎました。中学校にずっと勤めておりましたけれども、中学生を見てきてつくづく三つ子の魂だなと思うことが結構ありました。そういう思いにさせてくれたのが、この間の「若杉っ子 育ちと学び支援フォーラム」です。約10年かけて子どもたちを育てるところなるんだという、時間の重ね方がこのような成果に結びつくということを、聞かせていただいたと思っております。

現場を見せていただく機会が多くて、小中学校を伺うことがあります。子どもたちが公教育の場で一生懸命やってくれていて、うれしくてワクワクすることが多くなりました。どの子も同じ条件でやれるということが、一番うれしいことだと思っております。

教育委員の仕事をやらせていただいて思ったことは、行政の方々が本当に親身に気にかけて学校支援をしてくださっているということ、年々感じるようになってきました。学校現場に行きましても、「教育委員会が親身になって協力してくれる。ちょっと困ったと言えど何日も経たないうちに解決策や支援をいただける」という声を、ここ数年前から聞かれるようになりました。

校長先生だけではなくて、学校現場の先生方が本当に教員としての仕事、子どもたちを育てるという仕事を一生懸命頑張れる体制ができてきているんだと感じます。

現在支援員が30人おりますが、財政的なご支援が大きいと思います。市の予算で10年前は考えられませんでした。北秋田市が20人ぐらいのときに、大館市はその半分くらいで、どうにかならないかなと思っていたものですが、財政面の援助によって今ではそれを越しています。先生方が子どもたちに向かう時間を割けますようにご支援をいただければ、元現場にいた者として本当にありがたいです。そうすることによって、子どもたちの成長の姿が実感できます。その脇に市民のご理解、支援の姿が見えています。まだまだ理解というところまではいかないかもしれませんが、じわりじわりと浸透していっているように思えます。

継続は力なりです。これをもっと継続拡大していく大館市の教育の方向性に自信を持っていいのではないかと思います。

○福原市長

高橋教育長のお話の中にあつた「他市当局部局からの教育委員会との連携」というのは、ふるさとキャリア教育が持っている政策的な拡張性を、課長級以下の幹部がきちんと理解してくれているということの証左だというふうに考えています。

教員の働き方改革は絶対しなければなりません。教育分野においてもふるさとキャリア教育を持っている大館がなければ秋田の教育は語れないというような形に持っていくために、来月、知事と政策協議、首長会議がありますので、この話もしたいと思っております。校務支援システムの導入に関しましても、財政当局と詰めて負担をいくらかでも軽減するように持って行っていきたいと思っております。

○本多教育次長

次のテーマに移ります。教育大綱基本目標5項目についてです。一つ目「信頼と安全を築く教育環境の整備充実」について、担当課長が説明します。

(「信頼と安全を築く教育環境の整備充実」について、加賀教育総務課長が説明)

○本多教育次長

ただ今のテーマについて、皆様のご協議をお願いします。

○山田委員

毎年、市長と語る会でPTAの会長さんたちと懇談をしますが、昨今感じることは、会長さんたちの口から「本当にありがとうございました」という言葉が非常に多く聞かれるようになったことです。数年前は、耐震化で予算を具体的なものに振り分けられなかったという側面もありますが、やっと自分たちの要望も取り上げられてきていると認識していただいています。政策的に進めているわけですが、何とか要望を最優先でご検討いただけるように重ねてお願いしたいと思います。

○福原市長

空き校舎の利活用では、岩野目小、大葛小は商工課のサテライトオフィス事業等を含めて、加賀教育総務課長に進めてもらっています。コンピューターやIT関係の社長さん方々と話をすると、フィールドの実証実験の場所が欲しいと。大館はドローンがあるので農業の生産性を高めるIT投資を実際に実験したいと。商工課とも連携して、その辺の情報の共有化を図っていきたいと考えています。

あと、カリキュラムに関してもせっかく渋谷と仲がいいので、IT企業とのご縁が深まるのであれば、幼少のころから本物のIT教育に触れさせるというのもいいんじゃないかなと考えています。

○山田委員

市長がおっしゃっているとおり、交流人口がどんどん膨らんできています。これを、例えば1+1が2のような足し算でなくて、掛け算という形で増やすというのもいい発想だと思うんです。外国の方々がどんどん入ってくるようになってきているというのと合わせると、子どもたちに英語と限らずほかの国の言語と触れ合わせるということも大事だと思うんです。

○本多教育次長

次のテーマに移ります。次のテーマ「ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化」について、学校教育課長が説明します。

（「ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化」について、金子学校教育課長が説明）

○本多教育次長

これについては、先ほどの教育長のテーマとも関わってきますけれども、ご意見がございましたらお話しいただきたいと思います。

○小笠原委員

この夏のサマースクールに顔を出す機会がありました。東京から来た親子と交流しながら、子どもたちは一緒に科学実験をして、山本教育監からは大館の教育について話がありました。そのディスカッションで、名だたる学校の彼らから、大館のしかも公立の学校でこういう教育をしているのが脅威でしかないというお話でした。

○山田委員

大館では学校へのタブレット導入が進んでいますが、これからはタブレットだと思えます。もちろん読み書きが基本ですが。子どもたちはすごく覚えるのが早し、身近にタブレットひとつあると世界とつながる。学校がそういうことを教えてあげることによって、教育の格差が縮まるはずなんです。そういうことを大館が推進していただきたいと思います。公教育でこれだけのことができるんだよ、家庭の事情じゃないんだということを教えられるいい機会だと思います。何とかクリアできる方策をお考えいただきたいと思います。

○清野委員

温故知新と言いますけれども、古いことを大事に手書きで書く、頭の回路を通してものを覚えていくことは大事なことですけれども、今はタブレットを使えるようにならないといけないですね。そうすると、子どもたちに教えるためには先生方の研修も必要になってくると思います。その辺をどうしていくかということも考えていかなければならないと思います。

小学校の英語教育において、大館はすごい、全国と比べて何年先を言っているんだろうと思うこともあります。そこまでいけずにどうしようこうしよう迷っているところも多い中で、取り組みがすごいという、そういう称賛の声を聞いております。先生方の指導と併せて教育課程も作られていて、体制が整えられています。先生方も安心して指導ができています。そういう体制がタブレットを使った教育にも生かされるよう、合わせてお願いしたいなと思います。

○本多教育次長

次のテーマに移ります。「ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援」について、生涯学習課長が説明します。

(「ふるさとの誇りと未来をはぐくむ生涯学習の推進と支援」について、一関生涯学習課長が説明)

○本多教育次長

このテーマについて、協議をお願いします。

○根田委員

生涯学習フェスティバルのときに、木や木のおもちゃを使ったブースがありましたね。子どもたちがとても生き生きと木に触って楽しんでいましたので、自然の物に触れてとてもいいなと思って拝見していました。

○本多教育次長

次のテーマに移ります。「郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する」についてであります。担当課から説明します。

(「郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する」について、若宮歴史文化課長が説明)

○本多教育次長

ただ今のテーマにつきまして、協議をお願いします。

○山田委員

鳥潟会館のガイドさんには本当に感謝申し上げたいと思います。行くと丁寧に説明をしてくださり、知らなかったこと分からなかったこと、建築様式云々についても事細かにご存知で、そういう方たちをこれからも大事にしていきたいと思います。

○清野委員

しばらく鳥潟会館に行っていなかったもので、昨日午後から気分転換に行ってみました。空が広く見える部分があったので、聞いてみると木を2本鳥害で切らざるを得なかったと言っていました。イチョウが倒れたりとか、その都度メンテナンスが大変なんだなど、この調査から指定に入るまでの間、こまめにメンテナンスしながら5年もかかるんだなと思いながら、お話を伺いました。大館の財産ですよ。大館は何もないじゃなくてあるんです。そういう運びにいくようによろしくお願います。

○本多教育次長

最後のテーマに移ります。「市民スポーツの振興とスポーツ交流の拡充」について説明します。

(「市民スポーツの振興とスポーツ交流の拡充」について、松田スポーツ振興課長が説明)

○本多教育次長

ただ今のテーマにつきまして、協議をお願いします。

○福原市長

体育の日がスポーツの日になったように、政府もスポーツを文化としてとらえ学校の部活動ではないとの方向を示しています。

北海道がセブンズラグビーの強化都道府県になっていますが、セブンズは日本が必ず国策として広げますので、スポーツ振興課には今後の対応をお願いします。ラグビースポーツクラブを持っているトヨタとかもそうですが、世界企業のステータスなんです。そこと接点をもつことは大館にとって意義のあることだと思います。

もう一つは、政策協議でも話しましたが、モータースポーツ。オールスタークラスのラリーのドライバーが来年大館に集まります。今後、モータースポーツでも拠点としうるように持っていきたいなと思っています。

○本多教育次長

さまざまな要望・ご意見が出されたところですが、テーマに関する協議事項は以上で終了とさせていただきます。それでは、議事進行を議長に戻します。市長、よろしく願いいたします。

○福原市長

各課におかれましては、くれぐれも今の議論をベースに自分たちがやらなければならないんだと、他人事ではなく私事として次年度の予算編成に反映をさせていただきますようお願いを申し上げたいと思います。教育は「究極のまちづくり」であるし「まち育て」だと思いますので、がんばってください。

○本多教育次長

本日はどうもありがとうございました。本日の協議内容を十分に踏まえて、31年度の教育委員会の業務に展開してまいりたいと考えていますので、今後ともよろしく願いを申し上げます。

以上を持ちまして、平成30年度第1回総合教育会議を閉会いたします。本日は、ありがとうございました。